

特
118
226

壬戌記聞

自正月
至七月



正月 大言尺余

大槻文庫

今朝市に例に通り信代大名小名に役人入登

陣迄近年外国方役人数多し出役身一降言登

城中人敷多し変上者陣身而具持木多分入組中云其前以外混雜し

既通り之者又上持木むり運用多しと先怪我れ者有し既中中より

前大混雜人し此等不得止り書院番組及高木打京若堂刀を抜人し其

原原の騒動ありの籠中の人を抜箱に籠をり而門に之を打たず年当り入去凍

死せし雜人も何と云下馬言ふ人し其上と喧嘩も何と云中打物木を中打物

云希有之事ありと旅人負を疑乎むふし一の言ふ多し其入退出せし

るる云

正月 二方

一市に初市親式遠退せし者誰人の供人し麻上下に傳る人其言ふに中場

將落死後其若々日三朝見少由信守也

四月十日

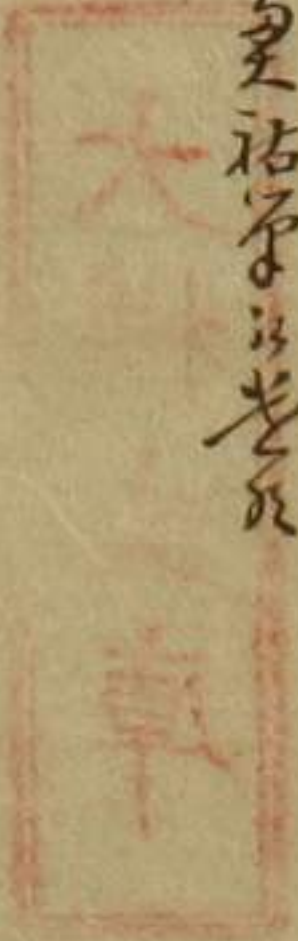
一今朝也 城免坂下門下馬西前 振務之云陸地打免七人 振務
女左右等 切免身供方之者防我至 振務之云六人打免生余之
者八迹吉辰批志者七捕押方振務之心之怪我身打免下門而友也
為乃又生血亦有之在舟一先為我為 供方如之云云之云云之云云
中為可也上

四月十日

安道馬守

此節中日列久世大和及打免也 變生城在信守欠技坂下門の上
兒如也 其也 生信守之家人信見之云云 信守也
印信者 馬守及中書上 川江安守 中村又 是馬守信守也

振務者之何名前



一 絨布一疋 印二卷
一 麻裏單履一足

三 三市 三市 十八日

一 懷中巾一 麻裏單履一足
一 西洋鏡一 批 但五月に交りて 作是也上りあり

細片 忠示 三十三日

一 折好越急書之現 子批一市
一 者之出付一通

左野 及和 三十日

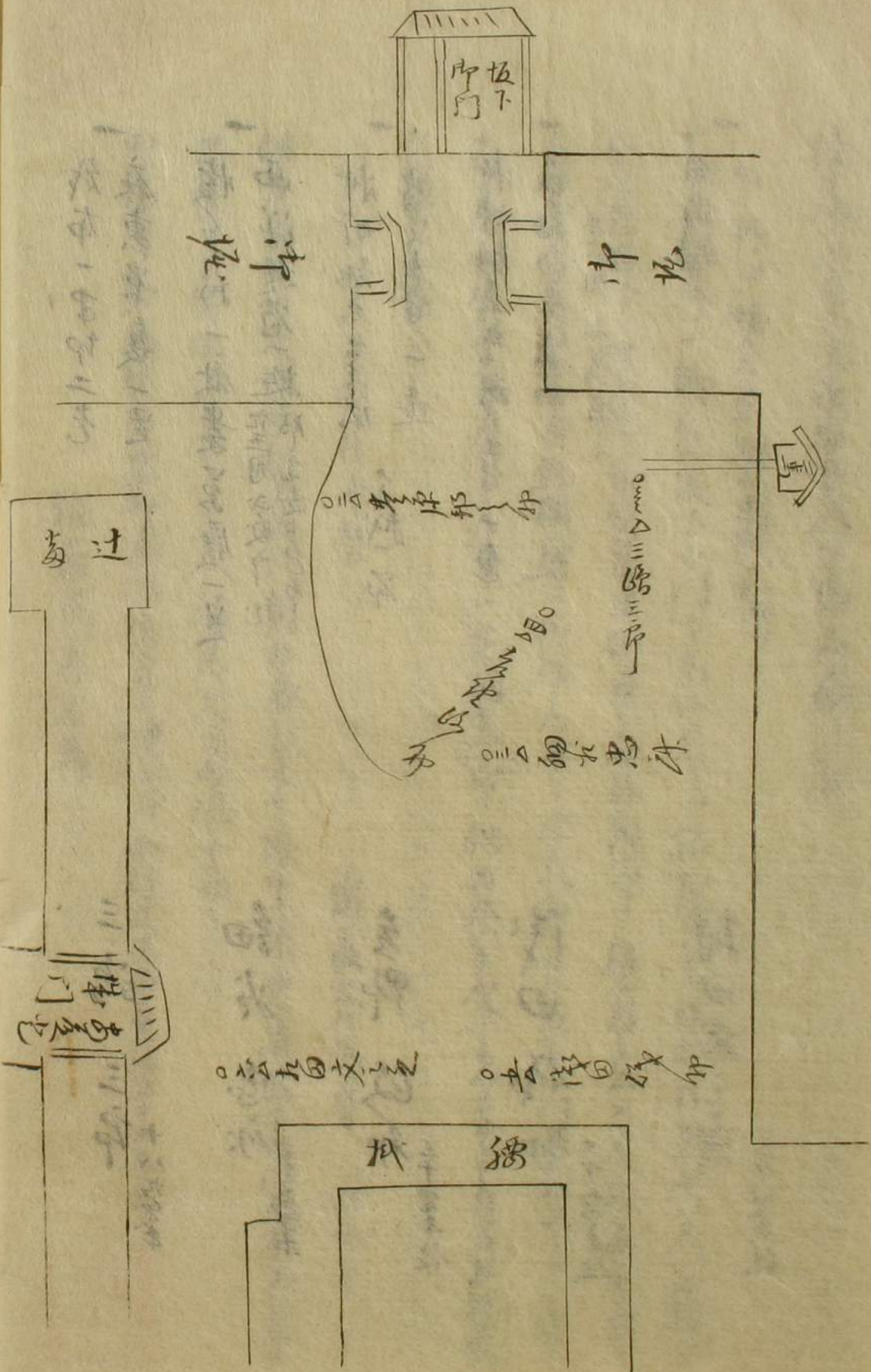
一 折好越急書之現 出付一通
一 瓶細白集式再西洋鏡一 批 是八例之云云

淺田 破和 三十日

一 本折明老一
一 月之折好越急書之現 出付一通

相田文之 三十日

右記之人ハ亦之由



上包打包

甲申三月志心報國之事伊大老井伊掃部左衛門尉新敷及下事下免及事
幕府存身是心を扶つて之を掃部左衛門尉新敷以来自己之権威を以て振ひ
茂如

天朝只管我様を心怖多し人情多し慷慨忠直之義士を以て一己之威力を示さ
んと之を官好謀を以てし其新敷

神列之罪人、事多右之臣好を例として自死於

幕府存身は乃出末向後

天朝を以て我事を以て國家之安危人々之向背中心は甘んずるも可有之を
及比才命を拂り斬殺及死交生後一向中懐心の中懐心も有る事、中幕政
之事也、本邦の事

安後為馬古皮才之罪魁と可なり、為馬古皮、井伊家執政の時、月後、

暴政の多きを掃蕩し其後死すに後を絶たず悔悟しんを以て其を以て奸謀
流計ハ掃蕩の後多し起過るに故に事許多し有るを其の湯井若狭吉成より會堂上
心儀の中方有るを乃ハ種々其の四死を置陳す

天朝を日服之人も其の事も其の謀も一は忠義國之志也其の事も
故有るを其の事も其の謀も其の底影死に事も其の
神列に統るもの方も其の底影死に事も其の

處多し其の事も其の謀も其の底影死に事も其の
上者も其の事も其の謀も其の底影死に事も其の
内天下に其の事も其の謀も其の底影死に事も其の
安し其の事も其の謀も其の底影死に事も其の
遂熱心止其の事も其の謀も其の底影死に事も其の

不堪なる今今一語を奉るに其の事も其の

皇妹中御所之儀を奉るに其の事も其の

天朝の事も其の事も其の底影死に事も其の

公武中御所之儀を奉るに其の事も其の
心定

皇妹を挾持して其の事も其の底影死に事も其の

初定を推して其の事も其の底影死に事も其の

天子之御讓位を奉るに其の事も其の底影死に事も其の
實

將軍家を奉るに其の事も其の底影死に事も其の
右に七條是利を起し其の事も其の底影死に事も其の
取扱を奉るに其の事も其の底影死に事も其の
周海倒量之儀を奉るに其の事も其の底影死に事も其の

皇国之形勢委彼等は教以近以而後山を不殘彼等ニ成也一は戸方一
の地を介妻は後一は彼等を導き我固をく免れり凡そ我者
之生上介妻を掃之度毎に括る密謀叛乱及骨肉の殺に就腔を
国中之忠義會憤一を公に布り仇敵之如く忌嫌を後國賊と
呼ぶ故に其等七く批政を以て終る

天朝を度一

幕府を倒一自分封爵を介妻清政に成りて後明白

此下之言は口説き合ふ事あり既に先づシイホルト一醜妻一若一日本之政
務は推乃て是を政を執るは評も其の官を有る度及命令を教年を少く我
神登之道を度一邪種を教を本として君臣父子の大倫を忌まりて撥棄
之るは是れ入吏於の故會歎一奉一を成り事多敷徴臣が吏吏流涕大思一
多余後も奸邪の小人を々斬戮上ハキキ安

天朝

幕府は國中の善民が吏於と来果一交一禍を防り後一布一毛を

一本
君臣父子の大倫
を忌りて
多し故に
大倫
息を傳

車名

公は是心を為し傷に之を言官依る能くは後一交一井伊守は二好一

逆撥を以て草の遊介吏を接して

敵を以て麻の流以善民之困窮を而救す遊介

東思客以来之皇を基とて其の吏大將軍に而織任を而和を遊り取仕を

幕府を以て後今幕政を草とて天下に大名を

之を以て扱て而子傳りて折物右取を成りて必一定し事多し其の介吏

市を以て率以て其の吏を以て一人も其の吏を以て一吏於批誅戮を名とて之を

皇を以て依り君臣上下を以て毎一忠恕を以て其の守りて其の

幕府を以て其の

天朝一 敵を以て其の

近所如安後其要只今申月廿八日出修理後市中人目付橋并詳修在左門下
之遊立敷向心坊出出入之儀最重其故其故之位月日廿七日右之遊立敷并此位
申月廿八日以上

坂下門当番

小沼大膳組

四月十日

一 安後君脊推十に推之要幅身深さ申之刀突所之上に方之者て至る所
一 此之志敷之志上之居所之志敷之志申す事之深さ脊推之所之志敷
一 塚靜内二汁取廻り申之儀之志敷申す事之深さ

林 洞 海
戸塚靜 海

右之人公義之儀 作身之儀

一 今十日迄九所以書生種之者人 大徳右之介橋田左之助松平右衛門
家来之桂小右衛門之儀申す事之深さ申す事之深さ申す事之深さ
一 此之志敷之志上之居所之志敷之志申す事之深さ脊推之所之志敷
一 塚靜内二汁取廻り申之儀之志敷申す事之深さ

四月十日

大和赤八市

右之趣 水戸様申す事之深さ申す事之深さ申す事之深さ
和之志敷之儀 公義之儀 申す事之深さ申す事之深さ

右自教人死後拾出取七列
此士道所及之友後七所之友之友也
一 昭中角下連の家来多之友也

正月十日

安藤對馬守

- 一 源子 原田 祐三郎
- 一 淺子 友田 六之助
- 一 作子 小栗 守及市
- 一 日 松平 源兵衛
- 一 淺子 上坂 大右衛門
- 一 日 村上 孝房

一 源子 正夜後家物多
一 日 寺家可なり
一 浅子 亦後旗之知
右之字通多者之加倍式八全子拾式未支
右拾所之

一 正月十日
對馬守廣直令右之宅 肆四月中用多之知
之淺海釣之節撰之人之節撰 幕府自取之友也
四月十日 所用右 性多
四月十日 所用右

毎交之友之類多余未及也 安藤為多也
加判列之友酒後物

右旅

市前

作行

市口 皇德寺 金

代金 五十枚

日人

右

市 皇德寺

上意

市 日人

日

皇德寺 金 三十兩

市 日人

西九 皇德寺 金

市 日人

日人

右旅 市 皇德寺 金 三十兩

此 皇德寺 金 三十兩

幕府 皇德寺 金 三十兩

幕府 皇德寺 金 三十兩

一月十日

一 皇德寺 金 三十兩

山本 皇德寺 金 三十兩

皇德寺 金 三十兩

皇德寺 金 三十兩

日人

一 皇德寺 金 三十兩

大 皇德寺 金 三十兩

皇德寺 金 三十兩

日人

大 皇德寺 金 三十兩

皇德寺 金 三十兩

日人

一 皇德寺 金 三十兩

大 皇德寺 金 三十兩

日人

右旅 市 皇德寺 金 三十兩

皇德寺 金 三十兩

四節二万七千人外、什長二十四人、総支五人、例取五人、上下二人、平均より八十人、次、定式方例百三十人、日表百十人、是れ、早人止、大凡、紙、筆、刀、以上より千人、傳、お及、

一 尚書出立、及、言、色、色、色、言、人、出立、尸、付、又、及、言、色、色、色、言、四十人、口、外、上、倉、下、之、宣、出、出、法、語、事、

但、天祐、九、大、坂、右、上、列、上、倉、下、之、宣、色、色、色、言、人、出、出、出、人、教、及、後、得、色、一、上、坂、右、免、且、名、用、意、語、事、下、之、宣、糧、米、右、人、教、一、紙、

一 人数、大凡、上京、之上、総、支、人、上、三、紙、石、引、人、上、江、戸、芝、郎、右、教、及、事、之、指、少、事、

一 上京、之上、陽、明、家、第、段、第、建、議、之上、中、日、言、色、色、言、人、上、京、之、所、京、右、事、可、休、事、

和、渡、下、右、之、通、中、右、護、十、右、右、上、飛、左、之、登、臥、右、右、右、白、宣、事、下、
和、使、中、右、右、一、指、中、右、之、越、右、老、中、大、老、京、出、也、右、右、右、右、右、之、
尾、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

和、今、下、右、今、取、使、中、右、事、
詔、事、中、右、右、右、右、及、

皇、國、之、中、右、右、右、右、一、可、抽、忠、和、右、一、遠、
和、之、廣、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

作、出、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、
王、我、身、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

和、之、捧、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、
義、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

一 和、之、下、閣、白、九、條、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

善哉之事下各大小中讀利之者故也
作出之事下各故也

一 尚所種之候論もも之候所論上六徳の家世於て大弟世唱正堂
天下之弟諱を揚て女を用ふに限り心は未だ其危に誘は甚難白有
之早急死の幕後、之を真実

白園復古の志を抱きて名之を是非に女を用ひて不備國体盛然
出来ぬ故筆を之に用ひて、徳の家世故
公武中合神

處之為多先君進志もも之を是非に女を用ひて不備國体盛然
出来ぬ故筆を之に用ひて、徳の家世故

右之趣既略之定果其巨細お向の上善篇は定書に近し未だ期一日取
可也皮仰る天明を温み俯て人事を察し、之の疑の時機は一筆書か

下

右之文之二年四月十日陽明公相借家名を以て之を故交に十分
此故本之ては其の密に事也

極密に事也之系に實行要當統に候事也、之に信て可也本之て難也
才一

皇園にあはれ抱て其の事実の悲歎ありて也 上之は此道原くは廟に遊
交ぬ事出之十分あり也 九條因白其の事も彼も、好幾度陽事下出也

上之は 作中、彼の中、中山大納言三親町三條三津守、人種名
新及之不近也好幾に人許出之、其の中、中山大納言三親町三條友人云

處意を伺ふ事、候も、其の事、保正親町三條も、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事

其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事

幕府の上書中自是亦國危も右も汝身を東一守上府梅自子とんく
おむらま表之法論

敵多を伺て申すもおむらま表のたしむるはあの上も危も自也

物産の出で代もおむらま何と
公氏奸賊を退るる

敵多をわらむ何れも名入れ申すもおむらま表のたしむるはあの上も危も自也

一 長列度 幕府上建白

近年外に種々難題あり立有るは故に何れの上も危も自也
中野多し中野多しと申すはあの上も危も自也
當堂に申すはあの上も危も自也

可何斗はも多し中野多しと申すはあの上も危も自也
Pより多し越組に申すはあの上も危も自也

白王國に申すはあの上も危も自也
以止子に振て世論もあの上も危も自也

Pより多し越組に申すはあの上も危も自也
先年にも多し越組に申すはあの上も危も自也

敵多 遵奉 基 可申すはあの上も危も自也
公武に申すはあの上も危も自也

公武に申すはあの上も危も自也
故をも振起し得程に申すはあの上も危も自也

先年にも多し越組に申すはあの上も危も自也
多し越組に申すはあの上も危も自也

事にも多し越組に申すはあの上も危も自也
中國休吏法に申すはあの上も危も自也

事にも多し越組に申すはあの上も危も自也
事にも多し越組に申すはあの上も危も自也

公武に申すはあの上も危も自也
公武に申すはあの上も危も自也

敵意を以て改むる中曰親を

中確守を以て改むる中曰親を

之此仕仕年血争し名下懐言激行をも破成一是又彼我之形勢を考之彼
之巧利技術を味かざる定むる之説を以て仕仕を誇耀し我固有之心争を
巧き愛買を愛するに深湛し一隊海防の直轄を以て一旦攻殺すに形を以て公
怖く古語瓦解の勢をもつて天下の物産に流く難きを納し此又敵解散人
らなる一旦有事の時既に然る海防の中なる事は何れも之を以て守るに
浮ぶ定國とすれば待集り中大作の關係を以て折平を親りて是も枝葉
之説をもつて一
公武の事海防軍制の旨何れも事ごとく是も多かるべし
枝葉の事是れを以て中遠却り海軍未だ修めざるは五欲の牛馬の生れたる能
く是も是れを以て改むるに守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
くは定むるに改むるに守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
改むるに改むるに守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

中国体の上より依り

中国体の上より依り

守株膠柱の儀は守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

守株膠柱の儀は守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

大倫大義を明らむるに天下の深淵統一人心和協の事なきは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

公武の自純然乎存神言

公武の自純然乎存神言

定論の中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし
中なる事其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

守りしは其家の大典改むる事能く是れ定むるべし

大海の海嶺はあまたの船もさかすかたの船もさかすか
中々命をもちて或る身は九死に生かされたり
之威をたふす欲はあらずと云ふ言はれしは進教仕る交遊の
容をたふすに能はざるもあらずと云ふ言はれしは上

二月

委印の如く遠送出せしの上

松平大膳右左

安慶の御
少中

一 虚実合伴の家老御殿の御長列の家老に在りし由に全実事
由を以て来出せし由

文久戊午四月七日列度也

家老の御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
今より如くお事の上は二休先年井伊屋世禰の御中井伊屋の御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
而恭及に御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と

人の悉く徳川家を離れ居候に御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
家老の御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
其の一因に在りし由に余も御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
和室様御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
將軍家御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
其の御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
由に余も御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
天朝を欺き遊中惟茂の御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
天子采女に逆群官を上一日懐懐一御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
お事の上は御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
少中御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と
其の御長建白仕立候と上りし由に余も御長建白仕立候と

而後其出也

此以風沙

一 七列永升難事

公造公所用之也七品度之建白之

處其方之在之論其之為有外國之不足也... 公造之申交也... 既而亦作... 且之度所之方... 危者其日性之...

和氣様 言後書之令吉文

和氣様申言後書之令吉文

公儀之申言後書之令吉文... 身於亦表命申知...

三月

和氣様

作出之文

去年年外吏色局申免許以奉天下之人心... 王攘吏名之... 公儀之申言後書之令吉文...

皇國一統之證札を破書し終之群徒割據之能賢...

忠孝義法上の道に在りては、亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
此の道に在りては、亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
事、亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ

一 亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ

一 亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ
亦作の賢は、一途の徳を修めしむ

戊三月

而美名判

右文久二年戊三月十九日 作中事

右之屋布の多向... 平土八人 名不悉

有馬中務大輔... 水之害神

水之害神

口人降 高木 和名

久多弟三郎 名不悉 平土八人 名不悉

其六... 二月十日... 京郡上吉... 河川越中守家来...

河川越中守家来... 林 唯七

清水 又一

二人

陣屋...

長列... 少...

下...

推...

一 戌四月...

紀伊守

私に於て和家表と爲る十三人
禮子卿など命に及ぶ者月本
有らむと云ふ兵衛井持等
休出の中も幾平多揚に
去らぬ間迄其の中を
中川神理也

四月三日

其の中も幾平多揚に

四月三日 紀伊守殿より

吉村定吉市
大石 因前
弘光 係前
其陣迄の中
坂下 総馬

古名の三毛寺守殿
和句古四月 和句古
其の中も幾平多揚に
休出の中も幾平多揚に
休出の中も幾平多揚に

四月三日

若尾 正馬

一 薩州老公和家表と爲る十三人
禮子卿など命に及ぶ者
皇國之謀忠之者
由何所私其をも

讚欲燕石借博為之聲援燕石不聞憤然去土佐之堅鎖不
入他人潛未浪華長邱方幕義徒投入今日五日深夜有
來敲門者則精一郎也所然曰此游不徒說其所經大概如左
意氣頗壯急請紙書曰天義唱四大字筆力透皆亦一奇士
長州全此事者毛利將監同伊勢浦靱負完戶九郎兵衛竹內
正兵衛皆傑然者今皆在京拱間此藩蒙命拱中海岸警營
屯伐揚二所曰復戶曰打出又將於戶那林鹿一伐未成營士
千人許為女裝來者又千人許京邸田舍士出入者不知幾
百唯寂然不譁或曰御得其人也薩人曰中根靱負吉田貞藏
村田己三郎石原甚十郎西鄉吉兵衛柴山愛右工門橋口壯助
堀忠左衛門以上本間所說

鍋島辰致世稱閑叟去月廿二三日自兵庫乘蒸氣船西下此

君信蘭學起功利為長崎貿易博利巨万與水戾唱和詩曰
天下英雄僅屈指平生知己獨逢君而賄彥根進位侍徒者亦
類及而復閑作女亦可九品一書生所說也

薩先主有賢明之稱曾過伏見傲行入京因近衛家拜

龍顏御話及外事戾曰臣不死不必貽憂於天下也再拜而退

薩先主蒸氣舟今繫天保山去岸二里許屹然如山或曰所載皆
軍實也

僕自二日游播中訪訶野夢吉從游十日餘誘西肥方人墊口智一郎
盡工石樵觀谷三人赴京支觀花之約至浪華松林生方感疫
病令斃不尋常湯藥皆仰僕之手看花之念因溫京中諸友
有書皆沮東上或云邏卒日在門不知何故聞本間生所說始信
此事淵源不淺也

別牘

賤人以十五日夜湘江先言薩泉列者入伏見云云薩邸營築新成粉白崢嶸巖然一大侯宅旁近市街皆像從諸人所舍薩人往來道路給繹長劍短衣鬚端半禿言語支離觀者瞻蹙是夜所司代若只邸內無故而大驚令第外方四丁曰孰有後令空宅出去將大為受敵之地急馳人若州士人五十歲以下者令至列下至翼朝聞令而至者無數今猶不止

長薩京邸中空地作做屋不畱餘地如薩不能給達邸市街徑令為薩人下宿所

伏見市門標筑前中將泊字問之曰豫有令未月十四日過宿之而未至聞侯途中卒病館在兵庫或傳自兵庫回駕西列泉州未此名稱納息女於近衛家因之奏一封於九重鳴咽東之罪

請下綸旨攘外夷也通謀者長列細川蓋在國恥豫謀已熟矣夫所上諸文書不經天奏之手而直達議奏故外聞不知何旨關白九條公束手茫然不一聞聞也

別紙所下勅書關白公有異論大觸逆鱗恐惶出去朝士無不稱狀

所司代有事稱病雖彥根來賀大議稱病不出今日十七日為東照公祭日以所司代不出雖播紳代參旗下諸士與復行拜者

天朝不終賀茂大祭則與大政支故至今日朝整寂然賀茂之祭今也一日也

一 戊四月廿七日附京新中留主格書狀之由

今般薩所家中以清和和家之言之由多人數言上京上作養元上

下之執事之人等何故之趣意之由及及及之由及及及之由及及及之由

廣悔様中用人毛利米女佐前次之由及及及之由及及及之由及及及之由

中及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

別紙

廣悔様中用人之由物之書状

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由及及及之由

燒身奉出存之由之於途中一人待更者和歌下
只此之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下
近御殿上御座議奏正祝所三條殿下
而使者正祝所殿下
及之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下

近御殿上御座議奏正祝所三條殿下
而使者正祝所殿下
及之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下
近御殿上御座議奏正祝所三條殿下
而使者正祝所殿下
及之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下

頃者重々之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下
近御殿上御座議奏正祝所三條殿下
而使者正祝所殿下
及之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下

四月十二日和歌事
近御殿上御座議奏正祝所三條殿下
而使者正祝所殿下
及之及事之者名外之其女有自此候之始
及急之只之京作下此也凡物之及以可下

一 十者和歌出京之者下
二 亦言及彼之者下
三 依之三十人中
四 此法同代之者下

後記方々事

一 亦昔長州君版京乃々向古事先時七命家来多々出京云云殊矣方
何角内流去の由

一 筑前産國許之古坂と云然和麻之由云云許上門迄之由何角内流去
事大云云程多々在在事云

一 薩州家京屋支使之屋妻之由云云何角内流去事大留之人身云云
亦云々之程々下流死之由連取流人持来取拂也の由

一 何角内流去之由京身流産後持来之由云云十六百取玉来事云云
用云々之由下喝

一 何角内流去事云云下流産後入世之由
事云云之由云云我々且人取来事云云の由

一 於 中府之由云云中府流去之由

みくしんていのりあはせと云云事云云
之由以上

四月十五日

采女侍

一 四月十五日汝島御所并其校守下事云云

先取中流産中先例も事云云今古英大云々名取身一天下下流之大放
行交 思及之由事云云千程少将岩倉少将を以て作事之由事云云

一 事云云而流産と云云事云云交右大放之由云云彼是中流産之由事云云
室弟流産 作出能交 思及事云云事云云之由事云云

一 始先年中事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云
之由云云 作出事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云

一 子之院室中始先年流産事云云 作出事云云事云云事云云事云云事云云
殿意事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云事云云

種身也依之重祿之勅仕入有身辭祿之家は其願之由
勅許之遊多由傳入其左大臣殿還候之と案の内活字
思召申御用意に 仰申召 思召申御用意に 其後之由
其約申御用意に及言申下
御用意之由申下及言申下 其後之由 其後之由 其後之由

五月廿日

連名

酒井若狭守殿

一 在御入及准后殿也傳入道前左大臣殿在御入及前
右大臣殿并給申平常之由去月晦日は 仰申下其由月下旬
還候之由仰付入及准后殿に在御之由及傳下其由
仰申 思召 御用意に及言申下 其後之由 其後之由
其後之由 其後之由 其後之由 其後之由 其後之由

御用意之由申下及言申下

作申下其由傳下其由申下

五月廿日

連名

酒井若狭守殿

五月廿日出京狀

別紙に此交

天子と下下申下其由及言申下 其後之由 其後之由 其後之由

一 此交

一 勅使大原三位殿に 仰付別紙交に一條遣下其由申下

一 酒井若狭守に御用意に及言申下 其後之由 其後之由 其後之由
其後之由 其後之由 其後之由 其後之由 其後之由
其後之由 其後之由 其後之由 其後之由 其後之由
其後之由 其後之由 其後之由 其後之由 其後之由

別紙

朕惟方今時勢夷戎恣猖極幕吏失措置天下騷然萬
民欲墜塗炭 朕深憂之仰恥祖宗俯愧蒼生而幕吏
奏曰近來國民不協和是以不能舉膏懲之師願降嫁
皇妹於大樹則 公武一和而天下戮力以掃攘夷戎故許其
所請焉而幕吏連置曰十年內必攘夷戎 朕甚喜之抽誠
祈 神以待其成功昨臘 和宮入關東使千種少將岩倉
少將諭天下大赦之事且告田國政仍苗大概委於關東至
如外夷之事則我國一大重事也係其國休者或問
朕而后定議或使二三外藩臣預聞夷戎之処置幕吏對曰
宸意甚重大難遽奉行請暫猶預既而頃日列藩有獻謀
議者如薩長二藩殊親來奏事且山陽南海兩國之忠士

既蜂起密奏之幕吏奸徒日多正議委地而蔑 王家睦夷
戎物貨濫出國用之耗万民困弊之極殆至夷戎之營轄不
日而可知也矣冀舉旌旗奉 鸞輿於巫嶺誅幕府之女
吏或曰為除太平浸潤游惰之弊可誅京師之女徒又曰不顧
幕府下攘夷之令於五畿七道之諸藩如其衆議畢並出丁
忠誠憂國之至情事甚激烈使喻^{サツ}長之北軍鎮壓其他召
幕老吏久世大和守徃復曆日未告唯諾而先行昨臘所喻
之大赦夫大樹猶弱何失之有唯幕吏因循偷安撫馭失
術如是則國家頽覆可立而待也 朕日憂懼焉所謂偷一
日之安忘百年患聖賢之遺訓可鑑矣當內脩文德外
備武衛漸然建攘夷之功於是斟酌衆議執守中道欲使
德川與祖先之功業張天下之綱紀因策三事

其一曰欲令大樹率大小名上洛議治國家攘夷戎上慰祖神之震怒下從義臣之歸嚮萬民和育之基比天下於泰山之安

其二曰依豐大閣之故典使沿海之大藩五國祗五大老為咨次國政防禦夷戎之処置則環海之武備堅固確然必有掃攘夷戎之印

其言令一橋利部卿授大樹越前前中將任大老職輔佐幕府内外之政當不受尤徃之辱此万人之望恐不達 朕意次于此三事是故下使於關東蓋使幕府選三事其中之一以行也是以周詢群臣之無忌憚各啓沃心丹直奏謹言

一宸筆云公卿方之卿不云云

夫聖人之德也。一内安けぬ必外患有と方今天下二百有餘年。至平慣水遊惰の流に武備を怠り甲冑朽腐。于戈府内錯す。卒に夷狄之患起る不能應之。終に癸丑甲寅の年益駕御所と失心事。摸稜多し是以戎虜不知忌懼。微承無勵條約を定むる。幕府と通らん事。清と幕府因循不能拒其誘。下小吏奏。德和其誣。潤介之羽。己年二月。幕府以老吏堀田。及二三小吏。登京事。情と陳し切。清と止。朕孰業。古今夷狄。憂。饑。少。近年。多。事。未。有。之。若。一旦。親。押。之。難。流。釋。溺。神。以。陸。沈。一。朕。世。至。多。初。多。金。甌。を。飲。い。何。以。先。皇。在。天。之。靈。に。謝。せん。と。深。謀。を。言。ふ。群。臣。の。咨。詢。す。る。に。皆。其。の。不可。多。事。と。白。す。又。列。後。内。密。上。言。ふ。る。も。多。し。と。幕。府。に。命。じ。て。天下。の。大小。名。を。令。し。一時。會。し。陳。せ。し。む。

皇幕府令と既一止肯て是と天下傳ふ事す朕深夏意も一未
不_レ_レ其_レ事一不有_レ於_レ是群臣八十八人_レ大舊_レ也一_レ奏状と_レ以
朕之意と_レ啓す又式曰朕若幕府之請_レ不_レ從_レ心_レ素_レ久_レ元_レ弘_レ事_レと
多_レん_レ然_レれ_レも朕印_レ一_レ此_レと_レ証_レ家_レ天下_レ易_レん_レや卒_レり_レ重_レて_レ余_レ
す_レも_レ前_レ令_レと_レ以_レ次_レて_レ幕_レ吏_レを_レ返_レす_レむ_レ又_レ使_レと_レ嚴_レす_レ幣_レと_レ三_レ社_レ等_レ
或_レ當_レ國_レ体_レと_レ汚_レす_レ事_レ等_レく_レ人民_レ共_レ生_レと_レ安_レん_レ事_レと_レ形_レ法_レを_レ庶
幾_レく_レ弘_レ安_レす_レ先_レ從_レと_レ經_レん_レ豈_レ圖_レらん_レや旬_レ日_レを_レ幕_レ吏_レ朕_レ令_レと_レ在_レ
用_レ意_レ條_レ約_レと_レ之_レ通_レ商_レと_レ許_レ一_レ片_レ紙_レと_レ以_レ差_レ日_レ時_レ勢_レ切_レ迫_レ不_レ得_レ
已_レ也_レと_レ朕_レ殊_レと_レ其_レ侮_レ慢_レ失_レれ_レと_レ疑_レも_レ未_レく_レ遠_レく_レ是_レと_レ讓_レ責_レ也_レ以
三_レ家_レ家_レ門_レ式_レ大_レ老_レ城_レ百_レ一_レ其_レ子_レ細_レと_レヨ_レ守_レ礼_レと_レん_レと_レ敬_レ物_レに_レ尾_レ水_レ城_レ
之_レ録_レ二_レ三_レ之_レ名_レ後_レ長_レと_レ記_レ在_レ一_レ又_レ多_レく_レ令_レと_レ奉_レて_レ行_レた_レて_レ前_レ
將軍_レ薨_レ死_レせ_レり_レ又_レ忠_レ告_レ一_レ一_レま_レる_レもの_レ有_レり_レ曰_レ嗣_レ子_レ知_レ若_レ將軍

小任_レ事_レ多_レく_レ習_レく_レ其_レ為_レ不_レ交_レと_レん_レて_レ向_レ後_レ任_レも_レ望_レ物_レ也_レも_レ互_レ不_レ其_レ
職_レ小_レ任_レ一_レ其_レ之_レ以_レ主_レ職_レと_レす_レも_レ一_レ先_レん_レと_レ以_レ後_レも_レ小_レ為_レ軍_レ知_レ若_レ有_レ日_レ
案_レ情_レ朕_レ之_レ意_レ小_レ極_レ不_レ事_レ以_レ不_レ知_レ也_レく_レ攘_レ夷_レ念_レを_レ却_レて_レ之_レと_レ親_レ昵_レ一_レ
刻_レ正_レ法_レの_レ士_レと_レ擢_レす_レ朕_レ其_レ三_レ家_レ三_レ卿_レと_レ百_レせ_レた_レ未_レ刻_レ正_レ法_レの_レ名_レ後_レ長_レ
と_レ退_レ隱_レ式_レ八_レ林_レ不_レ錮_レ也_レ一_レ先_レ之_レ後_レ擢_レす_レ餘_レ激_レ一_レて_レ愛_レと_レ生_レ一_レ對_レ夫_レと_レ虛_レ
小_レ余_レ世_レん_レ事_レと_レ憂_レ也_レ一_レ祥_レ令_レと_レ幕_レ府_レ水_レ府_レ小_レ下_レ一_レ天下_レ此_レ大小_レ名_レ
同_レ心_レ合_レ力_レ幕_レ府_レと_レ輔_レ佐_レ内_レ行_レ吏_レを_レ除_レき_レ法_レ後_レ勅_レ王_レ之_レ心_レと_レ應_レ免_レ外_レ
黜_レ膚_レと_レ攘_レひ_レ吾_レ國_レ親_レ密_レ之_レと_レ純_レ也_レ一_レ先_レん_レと_レ以_レ後_レも_レ小_レ為_レ朕_レ之_レ意_レ可_レ
辨_レ一_レ之_レ令_レを_レ海_レ内_レ小_レ傳_レ不_レ一_レ天下_レ一_レ心_レ戮_レ力_レ德_レ川_レと_レ輔_レ佐_レ外_レ表_レ征_レ討_レ
一_レ後_レと_レ不_レ與_レ却_レる_レ云_レ不_レ和_レ之_レ親_レと_レ礮_レ一_レ朕_レ少_レく_レ之_レと_レ憂_レ不_レ其_レ回_レ來_レ一_レ
沙_レ之_レ盡_レ言_レ不_レ危_レ事_レ難_レ一_レ先_レ之_レ大_レ之_レ二_レと_レ言_レん_レ小_レ人_レ之_レ以_レ幕_レ府_レ也_レ是_レ
吾_レ行_レ不_レ張_レ戎_レ狄_レ也_レ是_レ相_レ繼_レ不_レ死_レ別_レ不_レ患_レ何_レ時_レ止_レ是_レ神_レ品_レ之_レ事_レ何_レ時

回復せん人民何時生とあせん是豪傑莫能く時小邦んハ以むる事
不能と三家の中一橋ハ其莫咄たると以て之とシテ其職小当り一先
寧ろ大車成成就せん是ハ幕府有志士其内小同族大舟
池其もわかあし又其同好措其言と状せんともも有て来其
朕加意のめくあしけし回放下総守也京幕令と以て天下此
事と海軍も去一切の結収して是と以て戸少りし次て四大後為時
出告し正儀士是以て下総古幕儀を白三日條約押印し事
ハ其後海軍守あしけし南後し初あしけし即今條約を也
巨市と止むる時ハ外國不信傳へ時怒りと激し異変不測不
生せん隈海軍儀未々元実せし大奸内小有し若忠記ふハ内
憂之不承せん然し忽ち天下大敗凡解め何ともあしけし小
邦も希くハ幕府之し不任せし姑く天下の時勢と申流せん東

と其年と経りて我膚を掃地し神カハ心奪と回復せんとは以
朕不故色狂て其法小任せし以て天下此来勢を乞ふ其後庚申
年三月三日水府浪士井伊しと刺せし事あり其不為ハ礼暴似之
とも其懐中之状書と見し其言を乞ふ事ハ以て外夫ハ政廳
と憤怒し幕府ハ夫職を死を以て陳むるあり是朕ハ嘗てし不
憂又其後年吾使を利し又東寺し件し皆し其新ハ基りし
其隙外夫ハ陸軍兵對品し事ハ其國互信事其厚ハ陸行は戸
小其来海軍則其敵山を信與し事ハ朕ハ幕府ハ其地と其
事ハ其責を其幕吏矣曰其是一時ハ控官し其法華同高走
初ハ御弟あり又其法華曰外夫を拂珍事ハ天下ハ心腹小其
んハ其種し故ハ和宮を以將軍小尚し以て其臣一和を天下に
長し而後我膚勤絶し及せ不然ハ其臣ハ其を隔絶せんとは其

奸賊あり外夫拒絶し及び難しと朕念ふ先帝遺教に姓を百有
餘の邦に傳へし古未嘗有し朕は尚せん事朕は之を實し
ひる不し難し幕吏切小肉り事情陳述し朕は憐を請ふ
止朕も之ふ不君と稱し祖宗天下小易一難しと之を史に記す
許し十年と不出必死し夫攘除し事朕命しと海内大小
朕之を信し一民侮死實也先んとい幕吏連累奏狀し朕
命と能んと故小を和宮入内侍の事及し難し小今夫小
幕吏安んじ浪士の為小判り是亦井伊と判也一志と同
志し一て皆は軍に死す事帰るべく實小勇豪し之鳴呼
び小を一一て大くを懐き事多きを仰へ一先て海内小了
實し言を以皆く之を男を儲へ一先他諸君に委し司し
先魁し一先んは賢を衛し況と控り事小終り何し難し事

あらん中諸小信事し事幕府は改新小は日夜行し
と探り事し是使小怨を天下に播く事小行し益よく
あるは一一て後小成方の割せんせは是を捕れ又新小生し天下
此亦止時あり後小大變を激生しに事らん是朕は
事ありて少羽翌十六日將軍津廣に事あり有日前に
津廣に事と知りしと河に難し津廣に事と事也
是を以しと朕其寛量を愛し因て甲申三月九日
外に其と事し又関白卯辛小其士を武多相小容小
具し物に傳ふ是朕深く怒愛する因て又男小に性
年三社小事營せし事神則し行穢を拂掃せん事
法し又法樂亦令移し事小度歳はし志を令し
し終んとい五年之を改め天下と堅小更始す云

氏実小一和とい時小及んで祝性ハ告めろの教小由て天下に大教の
 三大臣の遊園と教一引為長士の禁錮を教一志一士の連
 座也者と教三人事と速告幕府の以奉と行一外ハ是朕不深欲
 や而後天下を合七カと一十一年用と限一氏海元実也一
 新勢と一夫と庸小諭小利害を心て一一切小之と湖施一若小
 神ハ速小唐懲一昨ハ奉海田小全力と一今ハ一出て一創セハ
 皇神力ハ一先事ハ恢復せん小難之事ハ大んや若我ハ一之使
 小因諸姑甚舊套小後て一改海内被蒙一撫平小一戎膚一柳中
 臨ハ望多一勝と大軍小屈一既登小志一印度一七復撤と端ハ朕實
 小何ハ一先皇在天一神虛小湖せんヤ若幕府十年と限一朕
 一余に從ハ唐懲一昨ハ依之せん小朕實小勤死一之神臣一
 神功一之迹蹠小創一之脚百官と天下に牧伯と師ハて招征
 せん卿等其新志と体一々ハ朕小報せん事と討之

一土別後人大坂小同海と一交通一寫
 一及象助彦作生洛一其ハ
 一六朝 幕府一為薩國一力との流
 一及伊國旋一思一何今十二日一以爲士城法帝命大京卿ハ一乃
 一最一連一は作一
 一最一ハ大略ハ是速幕府一幕政速
 一勸一ハ一寛大
 一而仁意と一而者一怒と為遊高と一之ハ一氏小合神
 一徳川家一保物一ハ一北賞四討と明一之ハ一攘夷一
 一最一ハ一由
 一新一ハ一史一五綱一和吉一其一之ハ一倫一之ハ一由一之ハ一旬一海
 一最一ハ一度一師一之ハ一速一有一軍一田一法一之ハ一と一之ハ一之ハ一和象一彦一

力を尽す一湯を合せ

敵意をこの身体を以て作し安んず

長州藩の関東に即ち同族は北 幕府の是迄属遠勅を恒

宸襟の事不及中矢政一義我輩も互入寛政の心は遠戚禁烟

等為(賢明忠義)中矢を存の儀(幕府)を道一

天朝(追々)逆賊と安四村(正道)信一以上 將軍自罷を謝り給は

北(北)下(所)有(志)去(今)之(事) 関東(中)同族(是)多(強)く(何)ん(此)

撥(ふ)矢(胡)史(賞)得(と)四(一)少(終)は(北)は(何)ん(中)同族(は)政(府)の

大小(振)替(り)女(若)例(長)井(推)示(と)中(去)互(一)彼(海)大(害)之(事)

中(清)津(系)列(藩)の(美)守(私)之(宣)一(付)予(一)市(上)路(中)原(児)湯(の)

大(坂)直(二)者(夜)多(性)事(中)也(一) 福(是)藩(中)原(系)府(一)若(大)会(谷)也

中(出)は(北)一(所)回(不)言(は)病(後)始(路)近(以)川(道)は(海)至(也)又(日)如(中)中(状)

心(事)上(京)と(も)云 伏見(人)里(屋)了(洞)小

右(四)月(亦)二(日)取(一)

先(在)る(京)橋(一)間(一)湯(番)列(藩)回(盟)志(士)大(今)亦(分)夜(火)の

事(と)發(一)京(師)一(逆)賊(と)の(流)行(由)て(薩)藩(回)盟(士)も(六)十(人)

余(人)大(坂)小(居) 伏見(京)師(の)居 伏見(通)北(也)中(右)一(企)和(家)族(は)安(入)

入(六)十(也)を(執)一(る)在(恒) 宸(襟)少(義)我(藩)事(成)終(も)の(者)

之(ゆ)え(不)安(法)或(五)倫(一)若(止)身(又)今(二)月(の)於(五)一)是(是)水(一)付

北(通)は(傳)布(一)の(是)事(一)伏(見)一(待)文(五)倫(一)大(承)腹(不)友(不)付

六(人)付(れ)中(也)京(師)一(以)市(橋)一(如)日(傳)布(有)新(七)田(中)搦(女)也(一)

次(承)知(一)切(腹)書(一)新(形)也(六)人(回)志(一)路(多)和(三)人(務)本(孫)也(一)

井(上)流(八)市(一)先(年)一(京)師(郵)因(一)川(根)居(一)上(八)人(一)能(一)以(一)唱(一)回

盟(士)と(五)終(指)一(也)何(一)知(家)族(一)志(関)老(一)呼(一)之(一)亦(一)後(復)也(一)と

一 勅使の以国系はは 仰る所

勅使五ヶ所を荒増其五認也

第一大樹の大小名を率上洛夫我征伐有る也

第二豊太園(旧典)の(大)為多其年(以)を(我)在(也)

第三檜形(以)を(我)征伐(有)る(也)大老藏(其)四(年)

政事(と)あり

右二ヶ所(以)一ヶ所(奉)て(仰)也(其)旨(有)る(也)之(の)

勅使(以)出(立)る(所)長(又)取(捨)て(其)旨(有)る(也)其(旨)多(く)正(入)り(奉)り(也)

五月十七日

右二ヶ所(以)一ヶ所(奉)て(仰)也(其)旨(有)る(也)之(の)

勅使(以)出(立)る(所)長(又)取(捨)て(其)旨(有)る(也)其(旨)多(く)正(入)り(奉)り(也)

九年一毛(と)混(ち)八(種)く(七)等(一)意味(有)る(也)其(旨)多(く)正(入)り(奉)り(也)

五月十七日

